

慢性腎不全患者における消化管の
teleangiectasia からの出血に対
する estrogen-progesterone 療法

Estrogen-progesterone therapy
for bleeding gastrointestinal tele-
angiectasias in chronic renal failure.
An uncontrolled trial: Bronner MH,
et al (Ann Int Med 105: 371-374,
1986)

teleangiectasia は慢性腎不全患者
における消化管出血の原因として重
要であるが、病変が広範囲に多発し
再発性であるため、各種内視鏡的止
血法および外科的切除では効果不十
分である。一方, hereditary hemor-
rhagic teleangiectasia (Osler 病) の
患者の鼻出血に対し, estrogen-
progesterone が有効との報告がある
が、著者らはこの点に注目し, tele-
angiectasia から消化管出血を来し
た 7 名の腎不全患者に対し
estrogen-progesterone 療法の un-

controlled trial を行った。

対象は男性 3 名, 閉経後の女性 4
名の透析患者で, 内視鏡的に tele-
angiectasia からの出血が確認され
ている。2 例は胃, 3 例は大腸, 2
例は両者に病変が存在した。全例に
内視鏡的止血を試みたが再出血を来
した。6 例には estrogen と prog-
esterone の併用, 1 例に estrogen が
単独で投与された。出血の当日ない
し翌日に投与を開始し, 72 時間以
上の出血の持続ないし再出血時には
増量した。併用例のうち 4 例は初回
量 (Norethynodrel 2.5-5.0 mg/日 +
Mestranol 0.075-0.1 mg/日) で止血
した。2 例では Norethynodrel 最高
9.85 mg/日, Mestranol 最高 0.15
mg/日まで増量し止血した。単独投
与例は estradiol 0.5 mg/日で開始
し, 1 mg/日に増量し完全止血した。
平均輸血量は治療前 1.2 u/月から治
療後 0.21 u/月に減少した。

Osler 病の患者の鼻出血に対する

estrogen の効果は, 異なる control-
led trial において効果判定の評価が
分かれるが, 今回著者らは慢性腎不
全患者における teleangiectasia から
の消化管出血に対し, estrogen-
progesterone を用い良好な治療効果
を得た。しかし症例数が少ないため,
今後至適投与量の決定や病変の部位
による反応性の差などの問題につき
controlled trial で検討すべきであ
る。

estrogen による止血機序は不明
だが, 微小循環系での血流うっ滞や,
血管内皮細胞の変化の関与が推測さ
れている。

副作用は今回みられなかったが,
estrogen 使用の際は, 一般的な副
作用のほか teleangiectasia 自体の
増悪を招きうることに留意すべき
である。

(関東通信病院消化器内科

白井孝之 抄)